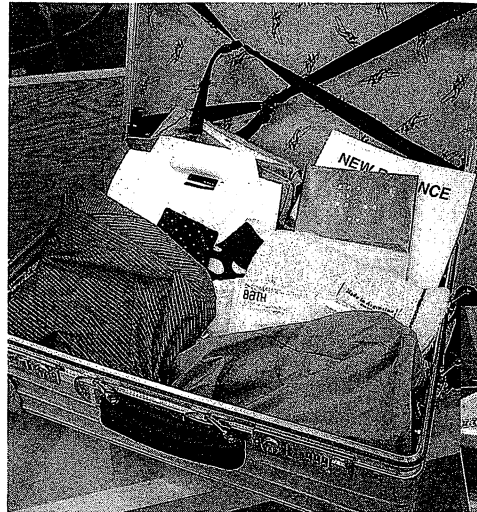


旅が切り口の小物・雑貨

金沢のカジグループが製品ブランドを開発



発信力あるブランド作りを意識した



パッケージデザインも凝った

テキスタイルの技術生かして

北陸で合織テキスタイルや糸加工を手掛けるカジグループ(金沢市、梶政隆代表)が、初の製品ブランド「TO&FRO」(トワー&フロ)を立ち上げた。中川政七商店がコンサルティングし、くまモンなどのデザインで知られる水野学氏がロゴマークをデザインした。軽量織物を使ったオーガナイザーなど旅をテーマにした製品を企画。今後もフィンアップを充実し、本業であるテキスタイルの拡販にもつなげていく。創業80年を機に立ち上げた10の新規事業の1つで、「100年を目指して積極的に仕掛ける年にする」(梶代表)という。

カジグループの織物製造、カシレーネで織った軽量織物を使ったオーガナイザーは、軽量コンパクトなのが特徴。容量約5リットルのSサイズ(2000円)が約17センチ、10リットルのM(2500円)が26センチ、20リットルのL(3000円)が39センチ。製品化にあたってナイロン・ポリウレタン混のリップストップのストラップ生地を新たに開発、「ハミングバード」(ハチドリ)のブランドをつけて生地の魅力も発信していく。染色は

小松精練、縫製は能登や小松の工場と、すべて石川県内で製品化したのもポイントで、「自分たちだけでなく、産地で一緒に盛り上げたい」という。グループのカジニットで編んだストレッチパイルを使ったネットピローとアイマスクのセット(5500円)は、首に負担のかからないフィットした形状も独自のデザイン。肌触りのいいパイルは生産の難しいフオーウエアストレッチで、「スノーウィーオウル」(シロフクロウ)と名付けた。このほか素材を組み合わせたトラベルスリッパ(3000円)も企画した。

中川政七商店との取り組みは、梶代表が中川淳社長と昨年後半に出合ったのがきっかけ。北陸産地の素材の特性を生かせるアイテムとしてトラベルグッズに着目し、著名な水野学氏によるロゴデザイン、渡り鳥であるツバメをイメージしたロゴマークなど、ショップや消費者に発信力のある製品、素材ブランド作りを心がけた。

このほど開かれた中川政七商店の展示会、「大日本市」で披露し、複数の有力ショップからオファーがあるなど手応えはある。小物、ウエアといったアイテムの幅を広げ、ゆくゆくはショップも開設したいという。10月末には企業ロゴ、コーポレートアイデンティティーを一新する。